

## 悲愴

札幌市医師会  
美田内科循環器科クリニック

### 美田 晃章

チャイコフスキーの「悲愴」は彼の最後の交響曲第6番で、日本人が最も好きな交響曲の一つに挙げられています。自分はムラヴィンスキー（レニングラードフィル）やカラヤン（ベルリンフィル・ウィーンフィル）、バーンスタインなどのCDを数枚持っていて聴き比べては指揮者やオーケストラによる違いを鑑賞しつつ楽しんでいきます。クラシックCDの中では最も枚数を集めた曲です。

昨年の6月の第610回札幌定期演奏会で飯守泰次郎氏の指揮による札幌コンサートホール・キタラでの「悲愴」を聴いてきました。札幌での演奏は過去に81回を数え、定番中の定番です。一昨年も佐藤俊太郎氏の指揮で演奏されました。今回はその第3楽章の終了と同時に観客の一部の席から拍手が湧き起こるハプニング。いわゆる「飛び出し拍手」で一瞬ハラハラして見ていました。飛び出し拍手とはクラシックなどの演奏会で、曲がまだ終わっていないのにうっかり終わったものと勘違いして拍手をしたり、最後の響きを楽しむべき所で拍手をしてしまうことです。これが起きると他の大勢の客が余韻を楽しむのを妨げられ、それまでの演奏によって作られた雰囲気や壊れたり、なおかつ演奏者の気分も削がれることがあります。その日はたまたまオーケストラの後部席で指揮者を正面から眺める席でしたが、飯守氏は一瞬たりとも嫌な顔もせず、淡々とこの曲の最終楽章へと指揮を振っていました。悲愴は飛び出し拍手に要注意の曲に挙げられていますが、大曲のラストは気分の高揚と華々しいコーダを迎えて輝かしく終わる曲調であることが多いことからすると勘違いするのも止むを得ないところです。しかし悲愴の真髄はその後の最終楽章にあるようです。悲しみと絶望の暗い夜の森の中でなおも希望にすがりつきながら彷徨い歩く最後のチャイコフスキーの姿を表しているようです。彼自身52歳で亡くなるまでの間、12回の鬱病を罹っています。もしかしたら「悲愴」の中には、鬱病の人が共感する何かが存在するかもしれない、日本は自殺大国だから人気が高いとの推察も説得力があると考えている人もいます。

最近、ギリシャの若手指揮者クルレンツィス（ムジカエテルナ）の「悲愴」もベストディスクにもなりました。一味違った解釈も加わり、ますます楽しみ方も増えています。

## W杯の翌年に

函館市医師会  
函館新都市病院

### 長嶋健一郎

1971年東京都三鷹市で生まれ、2019年かれこれ5度目の亥年を迎えます。その48年の人生の約80%をサッカーとともに居ります。少年時代多くの友人を持つことができたのもサッカーのおかげでした。非常に厳しかった母親が何故かサッカーに関しては全く寛容でした。妻も大学時代のサッカー部のマネージャーでした。

亥年とサッカーの関連；亥年はW杯yearの翌年。ということで、各亥年の日本代表を振り返ってみました。

1971年；メキシコ大会の翌年。釜本・杉山の時代（Mexico五輪 銅）の後期。監督は長沼 健。若干暗黒の時代だったようで次回五輪（ミュンヘン）の切符も取れず、同様にW杯西ドイツ大会への出場はかなわず。

1983年；スペイン大会の翌年。次回大会（1986年）は再びメキシコ。代表メンバーはGK：田口（！）、DF：岡田（岡ちゃん）、加藤（久）、都並ら、MF：風間、金田、木村（和）ら、FW：原（博美）、柱谷（幸一）など。現在の指導者や協会重鎮ですね。これらのメンバーでW杯最終予選まで戦い、最後に韓国に連敗。惜しくも本大会出場ならず。国立競技場での木村和司のFKは伝説ですね。

1995年；アメリカ大会の翌年。次回大会（1998年）はフランス。オフト監督で臨んで惜敗したドーハ後。加茂監督。GKは松永、菊池（新）、小島。DF：都並、井原、柱谷（哲）、堀池ら。MF：ラモス（10番）、北澤、山口（素）、磯貝（！！）ら。FW：長谷川健太、KAZU、福田（正）ら。フランス大会予選で加茂→岡ちゃんへの監督交代などを経てW杯初出場を成し遂げたチームの叩き台。KAZUと北澤の件はご周知のとおり。

2007年；ドイツ大会の翌年。次回大会（2010年）は南アフリカ。ジーコジャパン→オシムジャパンへ。GW：川口、檜崎（川島も！）。DF：鬨莉王、中澤、駒野、坪井ら。MF：中村俊輔（10番）、遠藤（保）、阿部、羽生（JEF）ら。FW：高原、矢野（貴）、巻、佐藤（寿）ら。7月、この年からW杯翌年開催となったアジア杯にこのメンバーで臨んだ（結果4位）。11月オシム監督脳梗塞発症され監督は再び岡ちゃんへ。

そして2019年；ロシア大会の翌年。次回大会（2022年）はカタール。ご存知「森保ジャパン」。初仕事はアジアカップ！ 結果は…？ 乞うご期待ですね！！

以上、自分本位で振り返ってみました。私自身、懐かしい名前を見つけたり、思い出に残るシーンを回想したり、楽しい時間を過ごさせていただきました。皆様にはあまり楽しんでいただけないかと存じますがご容赦ください。本年もどうぞよろしくお願いたします。